

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

- 地域の第一線で頼りにされ、愛され、そして地域を支えていく「地域の星」となる人材を育成する。
- 教科指導および進路指導の強化、さらに部活動や学校行事を通して生徒の進路選択肢を増やし、将来幅広い分野で活躍できる人材を育成する。
- 自らを律し、他人に思いやりを持ち、何事にも誠実に取り組む態度を育成する。
- 共生推進教室の設置により、ノーマライゼーションを推進できる人材を育成する。
- 国際交流活動を通して、多様性を享受する能力を育成する。
- 地域連携をさらに推進し、地域とともに成長し信頼される学校となる。

### 2 中期的目標

- #### 1. 学力の向上
- (1) 個々の生徒に応じた授業を展開し、授業満足度を増大させる。生徒の学習状況に応じ「わかりやすく楽しい授業」から「難しいが進路実現に役立つ授業」まで幅広い質の授業を展開
  - (2) ICT機器の活用、研究授業等により教員の授業改革を進め、学力の3要素（知識・技能／思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性）の育成を図る。
  - (3) 学力生活実態調査を活用し、3年間を見通した学力および学習習慣の育成を図る。
- ※ 学校教育自己診断：「授業内容は難しいが、進路実現に役立つ」への生徒の肯定的回答 75%以上（H29: 72.3/H30: 73.0/R1: 78.7%）  
 ※ 学校教育自己診断：「教え方に様々な工夫をしている先生方が多い」への生徒の肯定的回答 85%以上を維持（H29: 87.8/H30: 91.3/R1: 93.1%）  
 ※ 学力生活実態調査において、3年間学力到達レベル B3 以上を維持（H29: B3 /H30: B3 /R1: B3）
- #### 2. 自主的な活動の推進
- (1) 生徒会活動・学校行事・部活動の活性化、国際交流活動の推進
  - (2) ボランティアや地域と連携した事業への積極的な参画
- ※ 部活動への参加率 70%以上を維持、活動実績の向上（H29: 71/H30: 69/R1: 71.5%）  
 ※ 学校教育自己診断：「国際交流、他校または地域との交流活動に参加する機会が多い」への生徒の肯定的回答30%以上（H29: 24/H30: 33.4/R1: 37.3%）
- #### 3. 安全で安心な魅力ある学校づくり
- (1) 「高校生活支援カード」や「安心・安全アンケート」等により生徒情報を収集し、教育相談を積極的に行う。
  - (2) 規範意識、人権意識、ノーマライゼーション、思いやりの気持ちをより一層涵養する。
  - (3) 外部機関と連携を図り、交通事故の防止、SNSの適正利用、いじめ防止などについて継続的な指導を行う。
- ※ 学校教育自己診断：「悩んだり困ったりした時に相談できる先生がいる」への生徒の肯定的回答 65%以上（H29: 63.3/H30: 62.7/R1: 66%）  
 ※ 学校教育自己診断：「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」への生徒の肯定的回答 70%以上を維持（H29: 74.5/H30: 76.2/R1: 82.8%）
- #### 4. 個々の生徒が目的意識を明確に持った進路指導
- (1) 「総合的な学習の時間」および「LHR」等を有効に連携させ、「キャリア教育」、「人権教育」および「志学」を包括的に展開する。
  - (2) 自らの進路目標達成に向け、主体的に学習状況を把握し進路目標までのマイルストーンを描きながらアプローチできる進路指導を行う。
  - (3) 社会の情報化・高齢化・グローバル化に対応し、多様性を身に付け主体的に生きていくことの出来る力を育成する。
  - (4) 「共生推進教室」においては、一般生徒と「共に学び、ともに育つ」を一層推進し、人間性・社会性を成長させることにより、共生生徒全員の就職をめざす。
  - (5) 進学実績の向上を強力に進める。
- ※ 共生推進教室の卒業時の就職率 100%（H29: 100/H30: 100/R1: 100%）  
 ※ 英語運用能力テストで CEFR A2 レベル以上相当資格取得者 40 名以上在籍（H30: 37/R1: 57 名）  
 ※ 学校教育自己診断：「共生推進教室の生徒とともに様々な活動に参加する機会が多い」の生徒の肯定的回答 40%以上（H29: 38.5/H30: 44.2/R1: 52%）  
 ※ 2020 年度卒業生まで、現浪のべ合格数で、国公立大学および難関私大（関関同立）30 人以上、中堅私大（産近甲龍）100 人以上をめざす  
 （難関大・中堅私大 H29: 29・75/H30: 24・79/R1: 4・68）
- #### 5. 広報活動の充実
- (1) 地元中学校との連携、および広報紙・学校説明会をより一層充実させる。
  - (2) インターネットを活用し、本校の教育活動の積極的な発信を図る。
- ※ 学校教育自己診断：「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」の保護者の肯定的回答 85%以上（H29: 83.2/H30: 84.5/R1: 86.9%）  
 ※ 中学3年生対象第1回進路希望調査において希望倍率 2.0 以上（H29: 2.18/H30: 2.44/R1: 2.37 倍）
- #### 6. 業務の効率化・整理による職員の時間外勤務の縮減
- (1) 「大阪府部活動の在り方に関する方針」を実効化するとともに最終退庁時刻の励行を進める。
  - (2) 安全衛生委員会等において校内業務の効率化・整理を検討する。
- ※ 年間の職員の月平均時間外勤務時間数を30時間未満を維持する。（H29: 26h42m/H30: 28h43m/R1: 28h09m）

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>・学校教育自己診断アンケートで「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせて、増加傾向にあるものは、                      「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」                      昨年度 81.5%→本年度 88.3%                      「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」 昨年度 93.1%→本年度 96.0%                      「授業内容は難しいが、進路実現に役立つと思う。」 昨年度 78.7%→本年度 81.9%                      「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」                      昨年度 82.8%→本年度 85.7%</p> <p>の4項目で、すべて 80%以上となっており、めざす学校像「教科指導および進路指導の強化、さらに部活動や学校行事を通して生徒の進路選択肢を増やし、将来幅広い分野で活躍できる人材を育成する。」の実現に向けて着実に歩んでいると思われる。逆に減少傾向となっているものは、                      「遠足・体育祭・文化祭・修学旅行などは、楽しく行えるように工夫されている。」                      昨年度 93.4%→本年度 85.7%                      「共生推進教室の生徒とともに様々な活動に参加する機会がある。」                      昨年度 52.0%→本年度 45.9%                      「近くの学校との交流や国際交流、ボランティア活動等に参加する機会がある。」                      昨年度 37.3%→本年度 25.1%</p> <p>の3項目であるが、改善策を実施しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止による影響で、減少したものと考えている。来年度にはぜひ取り戻したい。</p>	<p>【第1回】令和2年6月9日(火)                      ・ICTを活用した学力向上の取組みに期待。                      ・新型コロナウイルスの基本的知識を学ぶことと合わせ偏見・差別のない取組み。                      ・休校期間の長期化などの影響による、より戦略的に授業計画を立てることが重要。                      ・難関大学・中堅大学の進学率が令和元年は大きく減少しているが、分析とその対策。                      ・中期目標の実現に向け、教職員が一丸となって教育活動に取り組むとともに、学校再開がスムーズとなることを願う。</p> <p>【第2回】令和2年11月7日(土)                      ・SNSでの問題が増加対策はどうか→授業や講演で啓発や注意を促している。                      ・太鼓部への騒音対策の進捗は→防音幕やシートなど可能な限りの対策を講じている。                      ・新入試による不安から安定志向になり指定校が増えているが、あきらめずに受験するように指導してほしい。                      ・コロナの影響で全国の学力が二極化しているが、久米田高校の学力が維持できているのを聞いて安心した。                      ・動画配信による授業は、50分の授業に対しては1/3くらいの10分ほどの動画がいいと思われる。</p> <p>【第3回】令和3年2月1日(月)書面による意見聴取にて開催                      ・コロナ禍での学校運営は見通しがもてず苦慮した中で例年と同様の評価を得られたことは、教職員の皆様の取り組みの成果。                      ・ほとんどの項目で目標の数値をクリアしていることは素晴らしいことだ。                      ・ICTの活用など、先生方が工夫されていて、授業を行っていることがよくわかった。                      ・総合的に見てみて生徒の満足具合は高いものと思われるので良いと思う。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上	<p>(1) 教員の授業力向上による幅広い質の授業の提供</p> <p>(2) 共生推進教室の授業づくりを軸に授業改善に取り組む</p> <p>(3) 学力生活実態調査を活用し学力・学習習慣の定着を図る</p>	<p>(1) 教員相互の授業見学及び相互助言。各教科でカリキュラムマネジメントを進め、「つきたい力」「何をどのように学ばせるのか」を明確にし、併せて教科間の学習内容を見える化して教科横断的な授業計画を推進し学習効果を向上させる。</p> <p>(2) 共生推進教室生徒にも参加しやすく理解しやすい教材開発・授業計画を進める。</p> <p>(3) 学力生活実態調査・全国模試を全員受験し結果データを個人・保護者面談等に有効に活用する。</p>	<p>(1) 「授業内容は難しいが進路実現に役立つ」80%以上。(R1:78.7%) ・「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」85%以上。(R1:93.1%)</p> <p>(2) 共生推進教室生徒アンケートで、「授業はわかった」80%以上。(R1:100%)</p> <p>(3) 学力生活実態調査の学力結果(GTZ)をB3以上(R1:B3)</p>	<p>(1) 「授業内容は難しいが進路実現に役立つ」81.9%(目標80%以上)〈◎〉 「教え方を工夫している先生が多い」96.0%(目標85%以上)〈◎〉</p> <p>(2) 共生推進教室生徒アンケートで、「授業はわかった」2/1に実施予定</p> <p>(3) 第2回学力生活実態調査の学力結果(GTZ)〈◎〉 1年:B2(国B3・数B2・英B2) 2年:B3(国B3・数B3・英B3)</p>
2 自主的な活動の推進	<p>(1) 部活動の活性化</p> <p>(2) 地域イベントへの参加や国際交流のさらなる活性化を図る</p>	<p>(1) 新入生への部活紹介および活動しやすい環境づくり等を進め、部活動をより活性化させる。</p> <p>(2) 地域団体等からのイベント参加要請を積極的に受け入れ参加する。 海外研修の更に充実させ、海外高校との相互交流にまで発展させる</p>	<p>(1) 入部率70%以上。(R1:71.5%)</p> <p>(2) ・学校教育自己診断「近くの学校や国際交流、ボランティア活動等の活動に参加する機会が多い」生徒回答35%以上(R1:37.3%) ・海外語学研参加数20名以上(R1:23名) ・海外高校との相互交流の実現</p>	<p>(1) 新型コロナウイルスの影響により部活紹介などが不十分だったため入部率69.6%(目標70%以上)〈○〉 テニスコートを大改修した</p> <p>(2) 新型コロナウイルスの影響により「近くの学校や国際交流、ボランティア活動等の活動に参加する機会が多い」25.1%〈-〉 オーストラリアの高校生との交流等は中止〈-〉</p>
3 安全で安心な学校作り	<p>(1) 教育相談体制の充実</p> <p>(2) 規範意識、人権意識、ノーマライゼーション、思いやりの気持ちの涵養</p> <p>(3) 交通事故の防止、SNSの適正利用、いじめ防止などについて継続的な指導を行う</p>	<p>(1) 「相談室だより」や教室掲示により校内の教育相談窓口の周知を図る 日々の登校指導での声掛けや見守りなどにより、相談しやすい生徒と教員の関係づくりをすすめる。</p> <p>(2) 遅刻の多い生徒への指導や制服の着こなしなどの指導を進める。 多様な差別問題や拉致問題、いじめ問題に触れ人権感覚を涵養する。 アサーションやアンガーマネジメントについて学び良好な人間関係づくりの力を育成する。</p> <p>(3) 交通安全講習会の開催、教科「情報」授業と人権委員会が連携し情報モラルやSNSの利用方法について学習を進める。</p>	<p>(1) 学校教育自己診断「悩んだり困ったりした時に相談できる先生がいる」65%以上(R1:66%)</p> <p>(2) ・年間遅刻総数を3000件未満(H27/H28/H29/H30/R1:3504/3240/3250/4179/2591件)</p> <p>(2)(3) ・学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」75%以上(R1:82.8%)</p>	<p>(1) 「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」66.9%(目標65%以上)〈◎〉 LGBTQ理解のための職員研修を実施(9月)</p> <p>(2) 1722件(昨年度2109件)と大幅減〈◎〉 「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」88.3%〈◎〉</p> <p>(3) 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」85.7%〈◎〉(目標75%以上) 1年生対象「携帯・スマホの適切な使用」についてe-ネットキャラバンを利用して実施(9月)</p>
4 個々の生徒が目的意識を明確に持った進路指導	<p>(1) 「自己管理」能力の育成や「キャリア教育」を推進する。</p> <p>(2) 主体的に学習状況を把握し進路目標までのマイルストーンを描きながらアプローチできる進路指導</p> <p>(3) 情報化・高齢化・グローバル化に対応し、多様性を身に付け主体的に生きていく力の育成</p> <p>(4) 共生教育を推進し、互いの人間性・社会性をさせる</p> <p>(5) 大学進学実績(現役合格数)の向上を進める。</p>	<p>(1) 「スケジュール手帳」を継続使用する。 1年次の自分の将来を語る1分間スピーチ、調べ学習を積極的に展開する。 卒業生やNPO久米田フレンドシップクラブによる進路説明会を実施する。</p> <p>(2) 1年次より将来の進路に向けた高校での学習方法について面談等で助言を進める。 学力生活実態調査や全国模試の結果を進路指導や家庭学習の指導に活用する。</p> <p>(3) オーストラリア海外語学研修を相互交流へ発展させる。 英語の外部検定への挑戦を軸に生徒の英語運用能力の向上を図る。</p> <p>(4) 共生推進教室の生徒と他の生徒と一緒に活動したり交流できる活動の充実を図る。</p> <p>(5) 分野別進路指導を充実させる。土曜講習・長期休業中の進学講習や学習合宿を実施する。 学力生活実態調査、全国模試で学力・学習実態把握、弱点克服を図る。</p>	<p>(1) ・「スケジュール手帳」をキャリアパスポートとして活用できるよう工夫する。 ・1年の発表大会の継続実施 ・進路説明会の継続実施</p> <p>(1)(2) 学校教育自己診断「将来の進路や生き方について情報を得たり考えたりする機会がある」80%以上を維持する(R1:84.8%)</p> <p>(3) ・海外語学研修参加数20名以上(R1:23名) ・現地校との相互交流の実現 ・CEFR A2以上相当取得者が40名以上在籍(R1:57名)</p> <p>(4) 学校教育自己診断「共生推進教室の生徒とともに様々な活動に参加する機会がある」生徒45%以上(H27/H28/H29/H30/R1:40.1/38.6/38.5/44.2/52.0%)</p> <p>(5) 現浪のべ合格数で、国公立大学および難関私大(関関同立)20人以上、中堅私大(産近甲龍)70人以上、看護系20人以上、公務員等10人以上めざす。(R1:国公立・難関私大8人、中堅私大77人、看護系27人、公務員等27人)</p>	<p>(1) ・「スケジュール手帳」使用 ・1年生1分間スピーチ(9月実施)プレゼン大会(12月実施)〈○〉 ・NPO公開講座「先輩に聞く」 ・公務員編(新型コロナウイルスの影響により中止) ・教育実習生による「先輩に聞く」(9月実施)〈-〉</p> <p>(1)(2) 「将来の進路や生き方について情報を得たり考えたりする機会がある」85.6%(目標80%以上)〈◎〉</p> <p>(3) ・新型コロナウイルスの影響によりオーストラリア語学研修中止〈-〉 ・CEFR A2以上相当取得者(目標40名以上在籍) 新型コロナウイルスの影響により本校での検定への取り組み中断〈-〉</p> <p>(4) 1月の時点で1名内定 1名内定予定、1名資格検定合格 「共生推進教室の生徒とともに様々な活動に参加する機会がある」45.9%(目標45%以上)〈△〉</p> <p>(5) 新型コロナによる入試動向への不安から推薦入試等、早期に進路決定する生徒が増加したため 現浪のべ合格数で、国公立大学および難関私大(関関同立)10人、中堅私大(産近甲龍)64人、看護系41人、公務員等15人。〈△〉</p>

## 府立久米田高等学校

5 広報活動の充実	<p>(1) 地元中学校との連携、学校説明会のより一層の充実</p> <p>(2) インターネットを活用した教育活動の積極的な情報発信</p>	<p>(1) 中学校から依頼された部活動公演や、中学校部活動との合同練習会を積極的に実施する。中学校から依頼された講演会に教員を派遣する。学校説明会のより一層の充実を図る。</p> <p>(2) 学校ホームページの更新。校長ブログ等で、タイムリーかつ分かりやすく本校の教育活動を配信する。</p>	<p>(1) 中学3年生対象第10月進路希望調査において希望倍率2.1以上 (R1 : 2.37)</p> <p>(2) 学校教育自己診断:「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」保護者85%以上 (R1 : 86.9%)</p>	<p>(1) 中学3年生対象10月進路希望調査において定員280名とした場合の希望倍率は2.46倍(希望倍率2.1以上) 〈◎〉</p> <p>(2) 「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」保護者88.8% (目標85%以上)〈◎〉</p>
6 業務の効率化・整理による職員の時間外勤務時間の削減	<p>(1) 「大阪府部活動の在り方に関する方針」を実効化するとともに最終退庁時刻の励行を進める。</p> <p>(2) 安全衛生委員会等による校内業務の効率化・整理の検討</p>	<p>(1) 月間部活動計画の校内公開、校内放送や顧問への啓発による部活終了時刻の徹底を図る。</p> <p>(2) 安全衛生委員会を開催し、情報共有の迅速化、紙資料準備の軽減、会議前の情報共有などの施策を進め業務の効率化を図る。</p>	<p>(1)(2) 職員の月平均時間外勤務時間数を年間30h未満とする。 (R1 : 月平均28h09m)</p>	<p>(1) 4～2月平均時間外勤務時間28h18m 午後7時完全退校を徹底させている。 〈○〉</p> <p>(2) 職員間の連絡に、メールやSSCの久米田高校の掲示板を活用 〈◎〉</p>